

愛恵だより

創刊号

2017年10月1日発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル 5F
電話：03-5961-9711 (代) / FAX：03-5961-9712
<http://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

「愛恵だより」発刊に寄せて

公益財団法人 愛恵福祉支援財団

理事長 濱 野 一 郎



2012年4月、愛恵福祉支援財団は公益財団法人としてあらためて事業の目的を次のように制定しました。

「この法人はキリスト教精神に基づき、すべての人々の健康で文化的な生活を維持できるように、たがいの助け合いによって、豊かな社会福祉の建設に寄与する」。

現財団の出発点である（財）愛恵学園の理念を引き継ぐものであります。

その理念のもと、主な事業（公益目的事業）は福祉社会の担い手を育成、及び社会福祉活動振興のための支援事業を展開することです。

公益財団法人としてすでに6年目を迎えています。

公益性を担保しつつ充実した企画、価値ある内容の「支援、助成、啓発」事業を具体的に実施してきました。

これらの事業に関わりのあった範囲の周知事項にとどめず、財団の理念とともに広くお知らせすべく広報誌「愛恵だより」を発行することとしました。ささやかなものでありますが、一層の「豊かな福祉社会づくり」をめざして、事業の案内や事業に取り組まれた方の活動や声などをご紹介します。

皆様のご理解とご支援をいただきたく願っております。

公益財団法人として

2008年12月1日、公益法人三法が施行され、新公益法人制度がスタートしました。

これにより明治以来続いてきた民法上の公益法人制度は抜本的に改正され、まったく新しい制度に生まれ変わりました。

新しい制度は「民による新たな公益の増進」のためにつくられたもので、それまで必要とされていた主務官庁許可、指導は不要となり誰もが一般社団法人、一般財団法人という形態の法人を設立することができるようになりました。それは当然のこととして法人の社会的責任が求められ、ニーズの応えられなければなりません。自己責任・自主自律性に基づく運営が強く求められることです。

新しい制度は既存の公益法人にも適用され既存の公益法人である愛恵福祉支援財団も2013年11月までに公益認定を受けて新たな公益法人に移行するか、許可を申請して一般社団法人、または一般財団法人に移行するか選択の余地はありましたが、価値のある財団として存立したいという願いをこめて公益財団法人へと移行しました。

基金の社会的還元、公的支援の及びにくい分野へ、地域（前財団では東京都のみ管掌）を超えて社会的責任を果たして「公益財団法人愛恵福祉支援財団」の存在を表していくこととしました。

公益財団法人に移行することによって、ガバナンスの確保、事業の透明性、コンプライアンスに対して取り組むことが必要となりました。

高いハードルが設定されていましたが、認可申請のための準備委員会での作業を経て2012年3月28日、公益財団法人として認定され2012年4月1日より新しく社会福祉の振興に貢献する財団として事業展開しております。

社会福祉の担い手育成 海外研修事業

社会福祉制度が充実している先進国を訪問し、優れた社会福祉実践を体験的に学習します。

特にキリスト教の精神を基盤にして、社会福祉を担う人材を育成するため、サービスの利用者の日常生活を大切にした支援や地域社会全体で支えている福祉活動のあり方を学習します。

そのため、長らく高齢者福祉に関する海外研修事業に力を入れ、また続けて参りました。今日、高齢者施設をはじめ多くの社会福祉施設で働く人たちは、その働きについて今のままでよいのか、確信や納得をもって、また、やりがいをもって働いているのか、自問自答し苦悩していることもあるでしょう。

このような気持ちを整理したり、自分の立っている場所を見直したりする機会を提供するのが海外研修でありたいと考えております。

先進国から学ぶべき知識、技術や制度、また地域社会全体で支えている福祉活動のあり方などを、毎年プログラムを設定し、研修を行っています。

海外の文化や習慣、人間理解において、現地で学んだこと、経験したことなど職場に戻って生かしてもらうことによって福祉の担い手としての自覚します。

研修の後に発行される「研修報告書」を通して、研修の成果を広く国内の社会福祉活動に分ち合うことができます。

最近の研修内容は次の通りです。

2015 年度 オーストラリア研修

スピリチュアル・ケアを取り入れた養護老人施設に学ぶ

2016 年度 イギリス レスター市研修（本欄紹介）

2017 年度は、9 月に研修先をアメリカ合衆国ポートランド大学において「先進的な高齢者ケアについて」学ぶことになっています。

訪問型子育て支援ボランティア 育成のためのリーダー研修

子育ての不安定さが増しつつある今日、子育ての経験者がそれとなく援助し、子育てをサポートできることがよいのですが、孤立化の激しい今日の地域社会にあってはこのような環境は整いません。不安と戸惑いの中での子育てになっているのかもしれません。

このような課題にいち早く気づき、一定の訓練を受けたボランティアを家庭に派遣して子育てをサポートする活動が「ホームスタート」としてイギリスで展開されています。

これは現代社会が求めている児童福祉事業として展開しなくてはならないと考え、当財団の海外研修事業として企画実行しました。

● 参加者の感想 ●

イギリス研修で見えた 子育て支援の可能性（NPO 法人 Mさん）

「拠点を作り、子育ての中の家族を集める」という子育て支援の形が主流の日本に於いて。ホームスタートは「待つ支援から届ける支援へ」という先駆的な形の支援である。地域のボランティアが子育てに困っている家庭へ訪問支援するというサービスを無料で利用出来るという事は、若い子育て中の家庭にとって非常に心強いサポートである。しかしながら、この素晴らしいサポートの運営を維持するためには、①ボランティアの力と②運営資金が必要になる。私たちの団体は子育て支援事業を開始して3年目を迎えるが、まさしくこの2点の問題を抱えていた。そんな中で、ホームスタート発祥の地で、現地の方と一緒に研修を受けることができ、実際に活動されている方のお話を具体的に聞けるという事は、かけがえのない学びとなった。……」

※詳細は、「2016 年度 愛恵福祉財団第 16 回海外研修 訪問型子育て支援ボランティア育成のためのリーダー研修 報告書」参照



ホームスタートの実践を学ぶ



最終日のふり振り返りミーティング

社会福祉活動充実 講座・研修事業

どんな時代でも、すべての人が健康で文化的な生活を維持できることが求められます。幅広い助け合いや学び合うことによって生活が豊かになることもあります。その一助として広く専門職、市民向けに情報とチャンスを提供しています。

2017年度 公開講座② 講師：川越 厚氏

■ 第2回 参加申込み受付中

北区王子駅前 北とぴあ カナリアホールにて
参加無料 申し込み先着100名

11月14日(火)

死を看取るために家族に必要なこと

愛する家族が死んでいくときに家族はどうあればよいのでしょうか？

お申込はチラシ裏面の申込用紙にご記入いただきFAXでお願い致します。



■ 第1回報告「在宅でのホスピスケア」

一穏やかな死をむかえるために死を看取るために家族に必要なことー

最近、苦しみながら死を迎えるのではないかと不安に感じている人、愛する人が死んでいくことのイメージが湧かない人、食べられなくなったらどうすればよいのか悩んでいる家族を、自分たちの手で「何とかしたい」と考えている人たちが多くなっている。

一どのようにして家で穏やかに死ねるか
最後まで家で暮らしたいを貫きたいー
～そんな願いをいかに実現するか～

これまで約2000人の患者を自宅で看取った在宅ホスピス歴25年の専門医の川越先生が、人生の幕引きを穏やかに行うための医療とケアについてお話をいただきました。終末期にある病者とその家族に対する温かいまなざしと豊富な資料を通して参会者に深い感動を与えてくださいました。

第1回公開講座DVDの貸し出しを行っています

本年度6月1日に開催されました川越先生の公開講座DVDビデオが出来上がりました。11月14日に開催される第2回にあわせ、DVDビデオの貸し出しを行います。貸出期間は1週間となります。詳しくはホームページをご覧ください。またはお電話でお問い合わせ下さい。(公開講座その1 72分 DVDビデオ)

読むことが困難な人々への 読書支援ボランティア育成のために

●音訳講習会

音訳は読むことが不自由な人たちのために文字などを音声化すること、発生、発音、アクセント、音訳のルール(間、抑揚、転調など)を学ぶ。

●音声デジタイズ制作講習会

パソコンでの録音と編集方法を学びます。録音と文字データを合わせた情報システムの製作です。

●マルチメディアデジタイズ制作講習会

音声と文字、画像を同時に再生できるデジタル録音図書を製作する。

文字の大きさ、色、行などの最適化を学ぶ。

開催時期はお問い合わせ下さい。

【デジタイズ(DAISY)とは】

Digital Accessible Information Systemの略で、日本では「アクセシブルな情報システム」と訳されています。「マルチメディアデジタイズ」は、パソコン上で専用再生ソフトを使用し、再生した音声と、画面で表示されるテキスト・画像等をシンクロ(同期)させることができるシステムです。音声のスピード・文字の大きさ・背景とのコントラストの変更や、目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶことができる機能もあり、またタッチパネルの使用、点字ディスプレイへの接続も可能で、様々な理由で読むことが困難な方々の読むことを助けることのできるシステムです。

手話教室

愛恵福祉支援財団の手話教室は初めて手話を勉強する人から、中級、上級の方まで、それぞれの技能に応じたクラスを設けており、楽しく確実に手話を身に付けるための講座です。

クラス別はおおむね次のようになっています。



入門	はじめて手話を学ぶ方対象
初級	指文字と自己紹介ができ20回以上の手話学習経験のある方
中級	簡単な日常会話ができ40回以上の手話学習経験のある方対象
上級	中級レベル以上で所定の受講テストに合格した方

毎年1月募集、4月開講、全20回/年間



社会福祉育成活動推進支援事業

ペイン記念奨学金

愛恵学園の創設者 M・A ペイン 宣教師を記念した、社会福祉の専門的教育を受ける者への奨学金制度。

給付は 4 年目となり、2017 年度までに 11 人（内 留学生 3 人）が受給しています。

2014 年度受給者の声 AN さんより

私は、大学 4 年次の 1 年間、ペイン記念奨学金の給付を受けました。

大学では児童福祉と更生保護の勉強に力を入れ、社会福祉士の資格を取得し、現在は福祉職の公務員として働いています。

福祉の現場は人を相手にするため、支援の方法は一つとは限らず、正解也没有ありません。そのため、目の前の人を何を思っているのかを考えながら、一人ひとりと向き合っていく力が求められます。卒業後の進路選択の際には、福祉の現場で働いていくことができるのか不安に思い、悩んでいました。そのような時期にペイン記念奨学金の存在を知り、申請をするにあたって改めて自分の将来について考えた結果、「自分が学んできたことを活かせる福祉の現場で貢献できる人になりたい。」と思うようになり、現在に至ります。

職場では、福祉の現場で働いてきた経験豊富な先輩方から学ぶことも多く、充実した毎日を送ることができ、福祉に関する職場を選択してよかったと感じています。

たくさんの方に支えていただいた結果、今の私があることを忘れず、支えていただいた分をお世話になった方

やこれから関わる方に恩返しできるよう、これからも福祉に携わる人間として成長していきたいです。

給付年額 100 万円以内（条件付）

社会福祉学大学院の学生。健康で学業成績、人物ともに優秀。奨学義務として大学院終了直後から就職し、受給の期間と同じ年数を社会福祉の現場又は社会福祉教育に従事すること。

詳しくはお問い合わせください。

資金助成

社会福祉法人、NPO 法人等の事業のうち、比較的小規模な施設、または障害者支援等に財政的な裏付けの少ない先駆的な試みや開拓的な事業に対して財政的な助成をして支援します。



子どもたちの遊具に助成しました

※助成内容

助成総額 1,000 万円（年度により変わることがあります）

1 法人当たり 20 万円を限度とする。

事業運営に必要な設備備品等の購入に対する助成

愛恵エッセイ賞

社会福祉活動がなくてはならない社会制度として充実発展するよう、助け合いの体験や経験のエッセイを公募しています。主題は「豊かな福祉社会を創るために」としています。



詳しくはホームページの案内をご覧ください。

対象：学生の部／専門職の部／一般の部

字数：1,600～2,000 字

最優秀賞	各部 1 点	賞状と副賞
優秀賞	各部 3 点	賞状と副賞
佳作	若干名	賞状と副賞

愛恵福祉支援財団 案内図

J R 駒込駅 東口より徒歩 2 分
北区中里 2-6-1 愛恵ビル 5 F
電話 03 (5961) 9711

